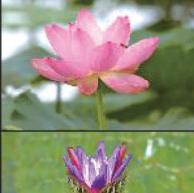




# 番号 標柱情報 春夏版

番号	場所の呼名	呼名のいわれ、ようす	標柱の写真	標柱の説明
①	さかたばし <b>佐潟橋</b>	佐潟公園整備の際に建築され、現在は2代目の橋。佐潟の代表的景観が望める。		<b>ハス</b> 佐潟の夏の風物詩。花は盆花として、果実は食用や工芸材料に活用。
②	しせんせいたいえん <b>自然生態園</b>	木道が整備され、希少な水生植物や水生昆虫、魚も観察できる。		<b>オニバス</b> 日本の水生植物の中で一番大きな葉をつける。新潟市が北限の自生地。
③	やちょうかんさつしゃ <b>野鳥観察舎</b>	愛称は「潟見鳥(かたみどり)」。水鳥の観察には、佐潟で最もよい場所にある。		<b>オオヨシキリ</b> ヨシ原で子育てをする夏鳥。鳴き声はとってもにぎやか。
④	すぎ <b>杉ダゴ</b> (スギンダオ)	昔、ここに杉林があったという。現在も細い杉があり、面影を伝えている。		<b>ヨシ</b> 水際に生え、群落を作る。大人の背丈を超えるものも。
⑤	はな さか <b>花が坂</b>	悲しい言い伝えからこの地名がついた。現在は、坂の痕跡がわずかに残るだけ。		<b>オドリコソウ</b> 人里に多い。名の由来は花の形が笠をかぶった踊り子に見えるからとか。
⑥	こ わた みち <b>漕ぎ渡り道</b> (中道)	上潟と下潟を分ける道。現在は通称「中道(なかみち)」と言われている。		<b>ミズアオイ</b> 水辺に生える絶滅危惧植物。昔は田んぼの雑草だった。
⑦	ひかりづか <b>光塚</b>	昔、純金の觀音菩薩、法具等が出たという伝説のあるところで、うっそうとしている。		<b>ノアザミ</b> 春から夏にかけて開花するアザミのなかま。葉にはとげがある。
⑧	おおしみず <b>大清水</b>	かつて幾筋もの水路があり、清らかな冷たい水が湧き出していた。佐潟で最も上流にあたる。		<b>ベニシジミ</b> 日当たりの良い草原に多い。羽を広げた大きさは、500円玉ほど。
⑨	なごまつ <b>名子松</b>	かつてこの地には立派な松林があり、地主に断り松葉拾いをしたという。		<b>ノシメトンボ</b> 赤とんぼのなかま。羽の先が黒いのが特徴。
⑩	ぬま <b>沼</b>	下潟の北西岸一帯。現在は松が植栽され、中にある道は春や秋に心地よい。		<b>ノイバラ</b> 花の終わった後につく赤い実もきれい。
⑪	はすぐやば <b>蓮小屋場</b>	蓮根採りが盛んな昔、ここに小屋をつくり、火で温まりながら潟に潜り蓮を探っていた。		<b>セスジイトトンボ</b> からだの太さはマッチ棒ほど。雄雌で色が異なる。
⑫	ながわり <b>長割</b>	御手洗潟(みたらせがた)に面し、かつてはもっと高い砂山があった。		<b>ヨシゴイ</b> 水辺で生活する夏鳥。水辺の草に擬態(ぎたい)する。
⑬	はなびば <b>花火場</b> (赤塚中学校)	昔、お祭りの際、草花火のほかに、この地で打ち上げ花火がおこなわれていたという。		<b>コウホネ</b> 水面にあざやかな黄色い花をつける。

●マップ製作：佐潟水鳥・湿地センター

住所 新潟市西区赤塚5404-1 電話025-264-3050

●公園についての問合せ：新潟市西区建設課

電話025-268-1000(代)

※このマップに掲載されているデータ・画像の転載・無断使用はできません。